
二人のキズナ

ミリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人のキズナ

【Nコード】

N7998D

【作者名】

ミリン

【あらすじ】

双海亜美・真美その二人のラストライブをすることが決定した。そこまでは良かったのだが、亜美と真美でケンカになり……。

二人のキズナ 第二話（前書き）

アイドルマスターのファンフィクションです。
主人公は双海真美です。

二人のキズナ 第一話

「ねえ亜美ー！真美も皆とバイバイしたーい！」

「いやだ！亜美が皆とバイバイするの！」

突然決まったラストライブ。

残っている日にちは、残りわずか。

いつもいつも、亜美に譲ってたから最後まで最後ぐらいは真美の役目。

……多分、真美の立場になれば誰でもこう考えられると思う。

……なのに、また亜美に譲らなくちゃいけないの？

そんなの……やだよ……。

「まつ、まあ……二人とも落ち着いて。……こうなったら我慢だ。

……真美。」

兄ちゃんが追い討ちをかけるような一言を言った。

……どうして？

……真美はいつまでも我慢なの？

……やっぱり、亜美の方が上手いから？

……っ！

「兄ちゃんも亜美も知らない！こんなになるならアイドルなんてやらなきゃ良かった！」

バタンツ！

『真美！』

二人が真美を呼ぶ中で、一人で事務所を飛び出した。

事務所の外は雪が降っていた。

「……………辛いよ……………はぁ……………」

歩いてると、ため息が思わず口から漏れる。

雪が降るようなほど寒いから、それは白くなって口から出た。

……………こんな寒いような日でも亜美といると、いつも暖かくなった
っけ……………。

『うう……………さ、寒いよ……………亜美……………』

『亜美も……………そうだっ！一緒にマフラー巻こっ！』

『わぁっ！亜美メチャイケ……………』

『でしょでしょ……………』

思い出して涙が頬を伝う。

……………あの頃はアイドルになれる何て全然考えてなかったよね……………。

「はぁ……………」

「……………あれ？真美……………ちゃん？」

ため息が思わず口から漏れた瞬間、声が聞こえた。

「そんな所で……………何してるの？寒いよね？私の家来る？」

「……………！ゆきぴょん！」

声をかけてくれたのは、ゆきぴょんだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7998d/>

二人のキズナ

2010年10月28日06時55分発行